

特集 2

フィリピン人物探訪：吉田裕二

魅力いっぱいの競技キューブの世界へ誘う



編集委員が小学生であった1980年代に流行った“ルービックキューブ”。私は、自力で2面くらい揃えるのが精いっばいで、結局一度として全面揃えることは出来ず、そのまま流行も去り、触れることもないまま、40年以上の時間が経っています。しかし、その間、ルービックキューブは、独自の進化を遂げていたようです。

吉田裕二さんは、フィリピンで暮らす普通の会社員ですが、いつもカバンの中に、“あるモノ”を持ち歩いています。それは、何と、あの“ルービックキューブ”。



スクエア1

しかし、少々私達が知っている“ルービックキューブ”とは、違っているようです。馴染みのある一辺が3個の正方形が並んだ立方体とは違い、同じ立方体でも各辺の区切られ方が違います。

「こんなの回せるの？」と思ってしまいます。

このタイプのキューブは「スクエア1」と言われているキューブで、吉田さんは、2018年にこの「スクエア1」を全面揃える競技で、何と9.28秒という当時のフィリピン国内公式最速記録を保持していた強者です。(現在はフィリピンで20位くらいの記録。)

吉田さんがルービックキューブに出会ったのは大学2年生の頃、以来、虜となったそうです。現在は、世界キューブ協会 (World Cube Association) の公式代理人 (Delegate) の一人に任命され、大会開催時の記録認定者になれるそうです。

◆ キューブの魅力

吉田さんにキューブの魅力を尋ねると「いつでもどこでも回せる」「携帯などよりも集中して楽しめる」「誰とでもキューブを通じてすぐに仲良くなれる」と答えて下さいました。

◆ 競技キューブの世界

フィリピンは、国際的に見ても大会に参加する人数は多く、これまでの大会の延べ参加人数は4千人弱。



Facebook グループの登録者数は 2 万人超いるので、吉田さんとしては、そうしたルービックキューブに興味を持ってくれている人に如何に大会やワークショップに参加してもらえるようにするか工夫し、発信をしているとのこと。2 月初頭にフィリピンで開催された大会には、日本からも実力者が 10 名程度参加してくれたそうです。

参加者を増やすため非公式なオンライン大会などはあるものの、やはり多くの人の前でやることで、ズルすることなく記録を認定できるので、質の高い大会はオンラインではなく、公式代理人監督の下、ショッピングモールなどの会場で開催されます。

競技では公平性を保つためコンピュータで生成された同じ崩し方で、柄も揃えられたキューブを使用して実施されます



◆ どうやって早く揃えられるようになるの？

「確かにルービックキューブを始めとする立体パズルは難しいですが、まずは自分で解きたい、揃えたい、と思って、多くの人が始めます。現在は、そこで行き詰っても多くの動画による解説も出回っているので、それらを参考に勉強して揃える。そして数回出来るようになると、短時間で揃えられるようになるので、繰り返し頑張っていくしかないですね。」

「仲間が世界中におり、SNS でも繋がれるし、大会などでも一緒にになれる。そうした仲間とワークショップなどで、互いの揃え方の体験を共有し、切磋琢磨して研究するのが楽しいです。」

◆ どんな競技があるの？

(ウィキペディア：「世界ルービックキューブ選手権大会」より抜粋)

キューブの種類は、公式には、11 種類。

片手、目隠し、最少手数 ($3 \times 3 \times 3$ を使用して) を解答する競技を含め、現在は 17 競技が公式競技として認定されている。

$3 \times 3 \times 3$ では通常の単純に揃える速さのみを競う種目の他に、片手や目隠しでキューブパズルを解くという離れ業要素が強い特殊な種目なども行われている。

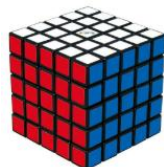
- 「片手競技」は文字通り、左右どちらかの手だけを使ってパズルを揃える競技である。計測開始後、どちらかの手でパズルを触ったらもう片方の手にパズルが触れてはならない。
- 「目隠し競技」は、まずキューブの状態を「見て」記憶した後、目隠しをしてこれを解く競技。見て記憶し始め、完全にパズルを解くまでの時間が競技者の記録となる。揃えるのに失敗したらその試技は失格 (DNF) となり記録は残らない。 $3 \times 3 \times 3$ のみならず、 $4 \times 4 \times 4$ 及び $5 \times 5 \times 5$ でも公式種目。



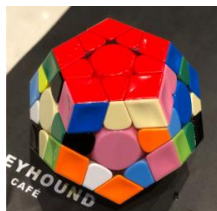
- 「複数目隠し」は2個以上のキューブの状態を同時に記憶し、目隠しをしたまま解く競技。
- 「最少手数競技」は、60 分の時間制限の中で、元に戻す手順のうち、できるだけ少ない手順（手数）を見付ける競技。

公式種目と競技方法（「－」印は非公式種目）

種目名	制限なし	片手	最小手数	目隠し	複数目隠し
3×3×3	最速・5回平均	最速・5回平均	最短手順数・3回平均	最速・（3回平均）	最多個数
2×2×2	最速・5回平均	－	－	－	－
4×4×4	最速・5回平均	－	－	最速・（3回平均）	－
5×5×5	最速・5回平均	－	－	最速・（3回平均）	－
6×6×6	最速・5回平均	－	－	－	－
7×7×7	最速・5回平均	－	－	－	－
クロック	最速・5回平均	－	－	－	－
ピラミックス	最速・5回平均	－	－	－	－
メガミックス	最速・5回平均	－	－	－	－
スクエア1	最速・5回平均	－	－	－	－
Skewb	最速・5回平均	－	－	－	－



ルービック・クロック



正十二面体：メガミックス



ピラミックス



スキューブ



ルービック・クロック アジア記録の瞬間

インタビューを終えて

編集委員も、その場で、ルービック・クロックや正十二面体のキューブに挑戦してみたが、確かに集中でき、他のことを忘れて没入出来る時間を持つことは、本当に良い体験でした。

ただ、揃えられるようになるには、ある段階からは手順を憶える必要があるようで、「この崩れた形の場合には、この手順」というのがあるそうです。本当に奥深い世界だと思いました。

久しぶりに何種類か購入して試してみようと思いました。

皆さんも、忙しいひと時をしばし忘れ、キューブの世界に没入してみても如何でしょうか？ (AW)

